

## 令和6年度 横浜旭陵高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和6年11月16日(土)10:00～12:00
- 2 場 所 県立横浜旭陵高等学校 B棟1F 多目的室
- 3 出席者 学校運営協議会委員:6名 (小玉様、大和田様、十亀様、渋谷様、山田様、川崎様)  
学校関係者:11名(管理職・総括教諭他)

### 4 内 容

#### (1)校長挨拶

本日はご出席ありがとうございます。年度途中までの経過をお伝えし、ご意見ご指摘賜ることで、より良い教育活動を行っていきたいと考えています。

最近では、2年次は研修旅行に行っていました。先週末には、全年次が揃う最後の文化祭が行われました。認知行動療法を取り入れた教育活動に関しましては、春に東京新聞、夏にはテレビ神奈川によって報道されました。先日、取材を受けましたので、近日中には朝日新聞にも掲載される予定です。校外に出て社会で活躍する大人に生徒が会いに行くという取組も春休みに実施いたします。閉校に伴い、生徒数は減少しても教育活動は充実させていきます。今後ともご支援ください。

#### (2)各グループからの報告

研究開発G

持丸総括教諭

生徒の認知特性の理解・認知変容を助ける取り組みや外部講師を招いた講座の実施、認知行動療法を取り入れた研究授業を行いました。

生徒による授業評価をおこないました。「わかる授業」を目指して取り組んできましたが、90%以上の生徒が肯定的評価をしています。「認知変容」に関しては自己肯定感の涵養、認知の多様化が促進していることも確認されました。年間を通して効果測定も実施しております。

日本認知・行動療法学会にて校長はじめ本校職員が学校の取り組みに関するポスター発表をしました。

今年度は校内だけでなくさらに校外でも認知行動療法を用いた学習活動を準備しております。教職員有志が希望する生徒を対象に実施する3本のプログラムです。プログラム詳細は資料4のとおりです。

学事情報G

大久保総括教諭

すべての科目が新課程での実施となりました。また、調査書の様式も変化しました。

閉校に向けて、スタッフ数や教室配置等、例年にはない検討が多く必要ですが、生徒に不利益のないよう準備を進めてまいります。

今年度の後期の成績処理も滞りなく進めていきます。

## 進路支援G

千葉総括教諭

仕事の学び場、インターンシップ、看護体験に。すべての年次から生徒が参加しましたことから、進路に向けた活動ができたと感じています。

現在、卒業年次生進学のための面接試験を受けていますが、模擬面接を重ねて実施するなど、生徒たちの進路実現に向けて、準備を重ね、支援しています。年内入試が増えており、夏から卒業年次の職員を中心にサポートし、確実に合格に繋げることができています。就職につきましては23名が内定しています。未内定者にも指導を継続しています。

調査書の作成も無事に完了しています。求人票の電子化も進めていますがトラブルもあるため、慎重にすすめていきたいと思えます。

## 生徒成長支援G

山森総括教諭(原稿代読長谷川教頭)

安心安全な学校であるために生徒指導と教育相談の2つを柱として指導をしています。指導件数は減少していますし、その内容もちよつとした不注意から発生したものが大半ですので、引き続き、注意を呼びかけつつ指導していきます。教育相談はSSWやSCの活用も含め、生徒、保護者に対して充実した支援のための体制づくりができています。

## 自主活動G

伊藤総括教諭

訂正として「・」2つめの「昨年度は延期された」を削除してください。

今年度は芸術鑑賞会も7月に無事に行われました。レクリエーション大会も無事に実施できました。今年度はボランティアガイダンスにも積極的な生徒が増えている印象です。部活動につきましては、活動を休止している部もありますが、活動中のところは頑張っている印象です。

地域貢献活動は猛暑をさけるため10月に実施しました。結果として、地域との連携に課題が残り、地域のゴミ拾いをするという活動内容に変更することになりました。

図書館については旭高校との合併に向けて蔵書の選定を適宜行っています。

文化祭は外部からは同居の家族に加えて卒業生も参加できる形に変更したことで、校外からの参加者も650名程度に増えました。

閉校に向けて教職員及び生徒数の減少は避けられず、来年度以降行事を例年通りに実施できるかという懸念はありますが、工夫しながら進めていきたいと考えています。

## 総務管理G

吉田総括教諭

来年度の新入生がいいため、親入生向けの広報活動は行っていません。在校生の学校生活を充実させることを業務としています。多くの行事においてPTAにご協力いただいています。

私費の会計業務も担っており、先日の中間監査でも恙なく終えることができました。  
今後は、閉校に伴う環境整備に適切に取り組んでいくつもりです。

斉籐副校長

ここで本校の取り組みの動画をご覧ください。  
～保健の授業の報道映像を上映～

### (3) 委員よりご意見

渋谷様

地域の自治会として閉校は大変残念に思っているが、引き続き旭陵高校生を支援していきたいと考えています。地域貢献デーは来年度もぜひお声掛けいただき、高校生と交流ができればと思います。

旭地球お助け隊の活動で廃油回収をしております。一斉清掃やあいさつ運動、上白根コミュニティハウスでカワニナを育てホテルを呼ぶ活動なども実施しており、高校生も一緒に活動していただければと思います。

山田様

認知行動療法の要素をとり入れた学習活動のうち、春休み実施の「駆け込み寺を探す」活動にとっても興味があります。たとえば、ヤングケアラーが自分の状況をヤングケアラーだと気づくことがまずは必要であり、そこからつながっていくことで支援が始まると思っています。区役所やケアプラザ、地域の活動等が居場所となり、地域の「駆け込み寺」に該当することになると考えています。この学習活動に参加した生徒が実施後、どのように行動するのだろうかと気になっています。社協のことも「駆け込み寺」として認知してほしいと思います。

十亀様

認知行動療法の手法を取り入れた自己肯定感を高める取り組みにとっても興味があります。

自己肯定感の高い方、認知力が高い方は仕事ができるという印象があります。そうでない方たちにどのように対応していくかを会社として考えています。個人的には、「受動的」から「自主的」「主体的」を経て、「能動的」に周りを巻き込んで動いていけるよう、指導しています。

「失敗を恐れず何度も挑戦していれば、達成感が得られる」という成功体験を積むことを会社でも意識しています。会社では、簡単に仕事をサボってしまう人が増えています。自分を見つめられるようになればそういった行動も減っていくのではと考えています。

ところで、資料2の項目検討はなされているのでしょうか。生徒の心に響く設問項目であるかどうか、が大切かと考えます。また、生徒の授業に対する満足度と学力の相関性の検討はされているのでしょうか。

持丸総括教諭

授業評価項目と学力との相関は検証していないので、今後の課題といたします。

大和田様

閉校していくことについて、生徒はどのように受け止めているのでしょうか。生徒に不利益のないように教育活動が進められていくことを期待します。

生徒たちの通学路でもある私どもの施設周辺では、宅地開発で周辺に重機が入ってくることも増えています。生徒の安全が保たれることを期待します。

小玉様

閉校に向けての業務、先生方はご苦労だったのではないかと拝察します。

認知行動療法を取り入れた授業実践に関して、授業評価項目8において先生方が把握しておられる範囲で具体的エピソードがあればお知らせください。

この授業に参加する生徒数に関して4月は6名との記述が資料1にありますが、多くの生徒が聞ける体制になっているのかどうかご教示ください。

持丸総括教諭

項目8について、具体的に記述した内容はなかったと記憶しています。ご指摘のとおり、学年全体、学校全体に実施しているものもあります。

澤口教諭

10月のはじめ頃、自分と相手は違うと突然気づき、「今までは自分の考えた通りに周りに動いてもらおうとしていたが、周りに期待しないことにした」と話す生徒がいました。自分の物差しだけで相手をはかるのではなく、自分と相手の認知の違いに気づけたのではないかと捉えています。

吉田総括教諭

人間関係の構築を苦手になっている生徒がいます。その生徒から「いろんな生徒がいてあたりまえなんだよね。」と言われたことがあります。生徒なりに認知の変容があったのではないかと思います。

大久保総括教諭

自己肯定感の低い生徒が多い中、一人ひとりと話していくと自分の良さを発見し、「自信がついてきました」と言われることがありました。

川崎様

中地区のPTA会長会に出席してきました。閉校の式典等を実施するのであれば、協力させていただきたいと思います。実施の予定はあるでしょうか。

大野校長

卒業式のあと、完工式という形で行うことは決定しています。生徒、教員だけでなく保護者の皆様にもご参加いただきますので、今後ご相談申し上げます。

齊籐副校長

ご意見ありがとうございました。今後の教育活動に活かしてまいります。

大野校長

認知行動療法の手法を活用した取り組みの基本的な方針は、複数の教員がさまざまな教育活動を通じて無理せず継続していくことです。

一日の学校生活の中で生徒が一番長い時間を過ごすのは教科授業ですので、全生徒対象に授業場面において、継続していくことで生徒が少しずつ変わっていければと考えています。様々な場面で多方面から刺激を与えることによって、生徒たちそれぞれの認知特性に影響を受けた認知変容、認知の多様化を促進していくという本取組を今後も続けてまいります。引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。